

# 東日本大震災 14周年記念の祈り

午後2時46分の黙想  
同じ時 想いを一つに 皆で祈りを

—すべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えて—



2025年3月11日（火）午後2時15分

※ 礼拝の開始時間（午後2時15分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約10分程度です。説教または勸話を15分程度としますと、午後2時46分まで約5分程度の黙想時間となります。

それぞれの状況に応じて、時間を調整し、この式文の全体、あるいは一部を用いて、祈りの時を共にしていただければ幸いです。

ひがしにほんだいしんさい しゅうねん きねん いの  
東日本大震災14周年記念の祈り

この祈りは午後2時15分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

つど  
ともに集う

一同立つ。

司式者 ちち かみ しゅ 父なる神と主イエス・キリストからのめぐみとへいわが、みなさんとともに

会衆 また、あなたとともに

く あらた いの  
悔い改めの祈り

司式者 かみ ひと ご あた 神はそのひとり子をお与えになったほどに、よ あい 世を愛してくださいました。この神のかみ あい こた 愛に応えるため、みずか かえり つみ ゆる いの 自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう

ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 あわ ふか かみ 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければならぬことをせず、おも ことば おこな 思いと、言葉と、行いによって、あなたととな びと たい おお つみ おか 隣り人に対して多くの罪を犯しています。どうか つみぶか 罪深いわたしたちをお赦してください。あたらし いのち あゆ 新 しい命に歩み、み ころ したが さか あらわ 心を従い、み栄えを現すことができますように、すく ぬし 救い主イエス・キリストによってお願いたします アーメン

聖歌 第425番

## 特 禱

司式者 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

天地の創り主である主よ、今わたしたちは東日本大震災の発生から満14年の日を迎え、共に祈るためにここに集いました。東日本大震災の地震と津波によって、そして東京電力福島第一原子力発電所事故によって大きな苦難を受けた人々のために祈ります。またその日から今日に至るまで、新型コロナウイルス感染症をはじめ、幾多の災害が日本国内において、また世界の各地で起こりました。その中で犠牲となった人々、また今なお困難な生活が続いている人々のことも思い、祈ります。どうぞあなたの慰めと励ましのみ力がそれら多くの人々の上にありますように。多くの災害とともに、いまだに小さくされた人たちの苦しみが続くウクライナ戦争をはじめとする争い、憎しみの絶えることのないこの世界にあって、わたしたちがあなたの創造の美しさを回復させるため、小さな器として用いられますよう、力と導きをお与えください。苦しみ、悩む人々と共に歩まれる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

## ともに聞く

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

### 第1朗読

朗読者 第1の朗読は、ダニエル書 第12章 1節から (ダニエル12:1-3)

1その時、大天使長ミカエルが立つ。

あなたの民の子らの傍らに立つものとして。

国が始まって以来、その時までなかった苦難の時が来る。

しかし、その<sup>とき</sup>にはあなたの<sup>たみ</sup>  
 かの<sup>しょもつ</sup>書物に記録が見いだされたすべての<sup>もの</sup>者は救われる。  
 2 地の<sup>ち</sup>塵となつて眠る人々の中<sup>ちり</sup>から<sup>ねむ</sup>多くの<sup>ひとびと</sup>者が目覚める。  
 ある<sup>もの</sup>者は永遠<sup>えいえん</sup>の命<sup>いのち</sup>へと  
 またある<sup>もの</sup>者は永遠<sup>えいえん</sup>の<sup>とが</sup>めへと。  
 3 悟り<sup>さと</sup>ある<sup>もの</sup>者<sup>おおぞら</sup>たちは大空<sup>ひかり</sup>の光<sup>かがや</sup>のように輝き  
 多くの<sup>おお</sup>人々<sup>ひとびと</sup>を義<sup>ぎ</sup>に導<sup>みちび</sup>いた者<sup>もの</sup>たちは星<sup>ほし</sup>のよう<sup>ひか</sup>にとこしえに光<sup>かがや</sup>り輝く。

朗読者 <sup>だい</sup> 第1の朗読<sup>ろうどく</sup>を<sup>お</sup>終わります

詩 <sup>へん</sup> 編 第46編

- 1 神<sup>かみ</sup>は我<sup>われ</sup>らの逃<sup>のが</sup>れ場<sup>ば</sup>、我<sup>われ</sup>らの方<sup>ちから</sup> || 苦難<sup>くなん</sup>の時<sup>とき</sup>の傍<sup>かたわ</sup>らの助<sup>たす</sup>け
- 2 それゆえ私<sup>わたし</sup>たちは恐<sup>おそ</sup>れない || 地<sup>ち</sup>が揺<sup>ゆ</sup>らぎ、山<sup>やま</sup>々<sup>やま</sup>が崩<sup>くず</sup>れ落<sup>お</sup>ち、海<sup>うみ</sup>の<sup>なか</sup>に  
移<sup>うつ</sup>るとも
- 3 その水<sup>みづ</sup>が騒<sup>さわ</sup>ぎ、沸<sup>わ</sup>き返<sup>かえ</sup>り || その高<sup>たか</sup>ぶる<sup>さま</sup>に山<sup>やま</sup>々<sup>やま</sup>が震<sup>ふる</sup>えるとも
- 4 川<sup>かわ</sup>とその流<sup>なが</sup>れは、神<sup>かみ</sup>の都<sup>みやこ</sup>に || いと高<sup>たか</sup>き方<sup>かた</sup>の聖<sup>せい</sup>なる住<sup>すま</sup>いに喜<sup>よろこ</sup>びを<sup>あた</sup>  
与<sup>あた</sup>える
- 5 神<sup>かみ</sup>はその<sup>なか</sup>中<sup>ちゆう</sup>におられ、都<sup>みやこ</sup>が揺<sup>ゆ</sup>らぐ<sup>こと</sup>は<sup>ない</sup> || 夜<sup>よ</sup>明<sup>あ</sup>けと<sup>とも</sup>に、神<sup>かみ</sup>は  
助<sup>たす</sup>けを<sup>あた</sup>え<sup>になる</sup>
- 6 すべての<sup>たみ</sup>民<sup>たみ</sup>は騒<sup>さわ</sup>ぎ、もろもろの<sup>おうこく</sup>王<sup>おう</sup>国<sup>こく</sup>は揺<sup>ゆ</sup>らぐ || 神<sup>かみ</sup>が<sup>こゑ</sup>声<sup>こゑ</sup>を<sup>だ</sup>出<sup>だ</sup>されると、  
地<sup>ち</sup>は溶<sup>と</sup>け<sup>去</sup>る
- 7 万<sup>ばん</sup>軍<sup>ぐん</sup>の主<sup>しゅ</sup>は私<sup>わたし</sup>たちと<sup>とも</sup>に || ヤコブ<sup>やこぶ</sup>の<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>は我<sup>われ</sup>らの<sup>いわ</sup>岩<sup>いわ</sup>
- 8 来<sup>き</sup>て、主<sup>しゅ</sup>の<sup>わざ</sup>業<sup>わざ</sup>を<sup>あ</sup>仰<sup>あ</sup>ぎ見<sup>み</sup>よ || 主<sup>しゅ</sup>は<sup>おどろ</sup>驚<sup>おどろ</sup>く<sup>べき</sup>こと<sup>を</sup>この<sup>ち</sup>地<sup>ち</sup>に<sup>おこな</sup>行<sup>おこな</sup>われる
- 9 地<sup>ち</sup>の<sup>は</sup>巢<sup>な</sup>て<sup>まで</sup>まで、戦<sup>たたか</sup>い<sup>をやめ</sup>をやめさせ || 弓<sup>ゆみ</sup>を<sup>くだ</sup>砕<sup>くだ</sup>き、槍<sup>やり</sup>を<sup>お</sup>折<sup>お</sup>り、戦<sup>せん</sup>車<sup>しや</sup>を<sup>や</sup>焼<sup>や</sup>き<sup>はら</sup>払<sup>はら</sup>  
わ<sup>れる</sup>
- 10 「静<sup>しず</sup>まれ、私<sup>わたし</sup>こそが<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>である<sup>と</sup>と知<sup>し</sup>れ || 国<sup>くに</sup>々<sup>くに</sup>に<sup>お</sup>禁<sup>お</sup>め<sup>られ</sup>られ、<sup>ぜん</sup>全<sup>ぜん</sup>地<sup>ち</sup>に<sup>お</sup>い<sup>て</sup>  
て<sup>禁</sup>め<sup>られ</sup>る。」
- 11 万<sup>ばん</sup>軍<sup>ぐん</sup>の主<sup>しゅ</sup>は私<sup>わたし</sup>たちと<sup>とも</sup>に || ヤコブ<sup>やこぶ</sup>の<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>は我<sup>われ</sup>らの<sup>いわ</sup>岩<sup>いわ</sup>

# 福音書

朗読者 マルコによる福音書 第13章 14節から (マルコ 13:14-20)

14 「<sup>こうはい</sup>荒廃<sup>にく</sup>をもたらず<sup>た</sup>憎むべき<sup>ところ</sup>ものが、<sup>た</sup>立ってはならない<sup>た</sup>所<sup>み</sup>に立つ<sup>み</sup>のを見たら<sup>どくしゃ</sup>一読者は<sup>さと</sup>悟れ<sup>とき</sup>、その時<sup>ひとびと</sup>、ユダヤ<sup>やま</sup>にいる人々は<sup>に</sup>山に<sup>おくじょう</sup>逃げなさい。15 屋上<sup>もの</sup>にいる者は<sup>した</sup>下に<sup>お</sup>降りてはならない。家<sup>いえ</sup>にあるものを<sup>と</sup>取り出<sup>だ</sup>そうとして<sup>なか</sup>中に入<sup>はい</sup>ってはならない。16 畑<sup>はたけ</sup>にいる者は、<sup>もの</sup>上着<sup>うわぎ</sup>を取り<sup>と</sup>戻<sup>もど</sup>ってはならない。17 それらの日<sup>ひ</sup>には、<sup>みおも</sup>身重<sup>おんな</sup>の女<sup>ち</sup>と<sup>の</sup>乳飲<sup>ご</sup>み子<sup>も</sup>を持つ女<sup>おんな</sup>に<sup>わざわ</sup>災いがある。18 このことが<sup>ふゆ</sup>冬に<sup>お</sup>起<sup>い</sup>こらないように、<sup>いの</sup>祈<sup>ひ</sup>りなさい。19 それらの日<sup>かみ</sup>には、<sup>てんち</sup>神が<sup>つく</sup>天地を<sup>つく</sup>造<sup>つく</sup>られた<sup>そうぞう</sup>創造<sup>はじ</sup>の初<sup>いま</sup>めから<sup>こんご</sup>今<sup>けつ</sup>まで<sup>くなん</sup>なく、<sup>く</sup>今後<sup>く</sup>も<sup>く</sup>決<sup>く</sup>して<sup>く</sup>ない<sup>く</sup>ほどの<sup>く</sup>苦難<sup>く</sup>が<sup>く</sup>来<sup>く</sup>るからである。20 主<sup>しゅ</sup>が<sup>きかん</sup>その<sup>ちち</sup>期間<sup>ちち</sup>を<sup>だれひとりすく</sup>縮<sup>だれひとりすく</sup>めて<sup>だれひとりすく</sup>くださ<sup>だれひとりすく</sup>らなければ、<sup>だれひとりすく</sup>誰一人<sup>だれひとりすく</sup>救<sup>だれひとりすく</sup>われ<sup>だれひとりすく</sup>ない。しかし、<sup>しゅ</sup>主<sup>じぶん</sup>は<sup>えら</sup>ご<sup>ひと</sup>自分<sup>ひと</sup>のものとして<sup>きかん</sup>選<sup>ちち</sup>ばれた<sup>ちち</sup>人<sup>ちち</sup>たちのために、<sup>きかん</sup>その<sup>ちち</sup>期間<sup>ちち</sup>を<sup>ちち</sup>縮<sup>ちち</sup>めて<sup>ちち</sup>くださ<sup>ちち</sup>ったのである。

朗読者 マルコによる福音書を終わります

## \* 勧話または説教

勧話または説教をする。

## \* 沈黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

## \* 打鐘

午後2時46分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1分間、黙禱の時を持つ。

黙祷後、次の唱和を用いる。

司式者 <sup>ひがしにほんだいしんさい</sup>東日本大震災によるすべての<sup>ぎせいしや おぼ</sup>犠牲者を覚えます

主よ <sup>しゅ えいえん へいあん</sup>永遠の平安をこの人々に<sup>ひとびと あた</sup>与え

会衆 <sup>た</sup>絶えざる<sup>ひかり</sup>み光を<sup>て</sup>もって照らしてください

### 使徒信経

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、<sup>てん ち つく ぬし ぜんのう ちち</sup>天地の造り主、<sup>かみ しん</sup>全能の父である神を信じます。

また、その<sup>ひと ご</sup>独り子、わたしたちの<sup>しゅ</sup>主イエス・キリストを信じます。主は<sup>しゅ せいれい</sup>聖霊  
によって<sup>やど</sup>宿り、おとめマリヤから<sup>う</sup>生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで<sup>くる</sup>苦しみ  
を受け、<sup>う じゅうじ か</sup>十字架につけられ、<sup>し ほうむ</sup>死んで葬られ、よみに<sup>くだ</sup>降り、三日目に<sup>みつかめ しにん</sup>死人の  
うちからよみがえり、<sup>てん のぼ</sup>天に昇られました。そして<sup>ぜんのう ちち</sup>全能の父である神の右に<sup>かみ みぎ ざ</sup>座  
しておられます。そこから主は<sup>しゅ い</sup>生きている人と<sup>ひと し</sup>死んだ人とを<sup>ひと さば</sup>審くために<sup>こ</sup>来ら  
れます。

また、<sup>せいれい しん</sup>聖霊を信じます。<sup>せい こうかい</sup>聖なる公会、<sup>せい と まじ</sup>聖徒の交わり、<sup>つみ ゆる</sup>罪の赦し、<sup>からだ</sup>体のよみ  
がえり、<sup>えいえん いのち しん</sup>永遠の命を信じます アーメン

### 平和の挨拶

司式者 キリストはわたしたちの<sup>へいわ</sup>平和です

会衆 わたしたちは<sup>しゅ な</sup>主のみ名によって<sup>であ</sup>出会い、<sup>しゅ へいわ わ</sup>主の平和を<sup>あ</sup>分かち合います

司式者 <sup>へいわ あいさつ</sup>平和の挨拶を<sup>か</sup>かわしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

### 献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよ  
い。

司式者 <sup>しゅ すく</sup>主の救いのみ業に<sup>わざ かんしゃ</sup>感謝し、ともに<sup>さんび ささ</sup>賛美を<sup>ささ</sup>献げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 <sup>しゅ たまもの</sup> すべてのはものは主の賜物

一同 <sup>しゅ う しゅ ささ</sup> わたしたちは主から受けて主に献げたのです アーメン

## ともに祈る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 <sup>すく めし</sup> 救い主イエス・キリストのみ <sup>ことば わざ たよ ぜんこうかい</sup> 言葉とみ業に頼り、全公会のため、また <sup>せ かい</sup> 世界のために、 <sup>ひがしに ほんだいしんさい おぼ</sup> ことに東日本大震災を <sup>いの</sup> 覚えて祈りましょう

司式者 <sup>いつく ふか かみ なぐさ しゅ いま</sup> 慈しみ深い神、慰めの主よ、今、わたしたちは <sup>ねん へ ひがしに</sup> 14年を経た東日本 <sup>ほんだいしんさい おぼ</sup> 大震災を <sup>いの</sup> 覚えて祈ります。どうか、 <sup>ひ さい ち</sup> 被災地にある人、 <sup>ひと ひ なんせいかつ</sup> 避難生活を <sup>し</sup> 強いられている人、 <sup>ひと とく に ほんしゃかい なか い</sup> 特に日本社会の中で生きる <sup>い</sup> ことの <sup>こんなん</sup> 困難に <sup>くる</sup> 苦しむ <sup>ひと</sup> 人、 <sup>しょうらい きぼう み だ</sup> 将来の希望を見い出せない <sup>ひと ささ</sup> 人を支えてください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

司式者 <sup>げん しりょくはつでんしよじ こ</sup> 原子力発電所事故により、 <sup>うしな</sup> 失われた <sup>し ぜん</sup> 自然と <sup>ひとひと</sup> 人々の <sup>せいかつ おぼ</sup> 生活を覚えます。 <sup>ふるさと はな</sup> 故郷を <sup>せいかつ</sup> 離れて <sup>ひと きけん</sup> 生活する人、 <sup>さぎょう</sup> 危険な作業に <sup>じゅうじ</sup> 従事する <sup>ひと</sup> 人と <sup>かぞく</sup> その家族を <sup>まも</sup> お守りください。そして <sup>せいじ</sup> 政治と <sup>しゃかい</sup> 社会に <sup>せきにん</sup> 責任を持つ <sup>も</sup> 人々に <sup>ひとひと</sup> 正しい <sup>ただ</sup> 道を <sup>あゆ</sup> 歩ませてください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

司式者 <sup>く なん</sup> わたしたちもまた、これらの <sup>おぼ</sup> 苦難をつねに <sup>おぼ</sup> 覚えることができますよ <sup>いっほんせいこうかい ひ さいしや し せん はたら</sup> うに。日本聖公会の被災者支援の <sup>つよ</sup> 働きを強めてください。そして <sup>おも</sup> わたしたちも <sup>ちから</sup> 思いと <sup>あ</sup> 力を <sup>とも</sup> 合わせて、 <sup>あゆ</sup> 共に <sup>つづ</sup> 歩み続ける <sup>あゆ</sup> ことができる <sup>みちび</sup> ように <sup>あゆ</sup> 導いてください

会衆 <sup>しゅ き</sup> 主よ、お聞きください

司式者 <sup>みなもと</sup> いのちの <sup>しゅ</sup> 源 である主よ、 <sup>ひがしに ほんだいしんさい</sup> 東日本大震災の <sup>ぎ せいしや</sup> すべての犠牲者、そし



て世界各地の災害と争いの中で生命を失った人々を、あなたのみ  
腕の中に抱き、永遠の安らぎを与えてくださいますように  
会衆 主よ、これらの祈りを主イエス・キリストのみ名によってお願い  
いたします。アーメン

## 主の祈り

一同ひざまずく。

司式者 主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、憐れみをお与えください

司式者 主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

## 感謝

司式者 とともに祈りましょう

すべてのものの源である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み

子との出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に

感謝し、み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和

を、わたしたちがすべての人びとと分かち合うことができますように。そして

せいれい みちび ひかり せ かい て はたら あずか  
聖霊の導きにより、あなたの光でこの世界を照らす働きに与らせてくだ  
さい。またあなたがわたしたちに与えてくださった希望を変わることなく保  
たせ、すべてのものがみ名をほめたたえることができますように、主イエス・  
キリストによってお願いいたします アーメン

## しゅ い 主とともに行く

終わりに司式者は次のように言う。

司式者 かぎ あい めぐ かみ よ ひと よ さ ひと ぜんこうかい  
限りない愛と恵みの神が、世にある人と世を去った人との全公会  
を、み子イエス・キリストによる復活とみ国の喜びに導いてくだ  
さいますように

会衆 アーメン

## はけん しょうわ 派遣の唱和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 かみ ひと つか い  
神と人ともに仕えるために行きましょう  
会衆 しゅ な  
主のみ名によって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。

## 聖歌 第465番

1 し ず け き か わ の き し べ を す ぎ ゆ く と き に も  
 2 む ら が る あ た は た け り を て す か こ め ど と き に も  
 3 う れ し や ら 十 字 架 の う え に て か が つ み せ む れ に ど  
 4 お お ぞ は ま き さ ら れ て 地 は く ず は る る と き き

う き な や み の あ ら う み を わ た り ゆ く お り に も  
 こ こ ろ む る も の あ ら び を の ぞ み く だ く と も  
 お も い に く ず お れ し 身 も の 主 を た え う た わ  
 つ み の 子 ら は さ わ ぐ と も か み に よ る み た み は

こ こ ろ や す し か み に よ り て や す し  
 (こ こ ろ) ( や す し )

When peace like a river attendeth my way  
 Horatio Gates Spafford (1828-1888)

PEACE  
 Philip Paul Bliss (1838-1876)



この式文は、日本聖公会祈祷書別冊諸式『み言葉の礼拝』、  
『日本聖公会聖歌集』（2006年）、『聖書 日本聖書協会  
共同訳』（2018年）から抜粋したもので、日本聖公会東  
北教区主教 主教 フランシス長谷川清純が、救主降生  
2025年3月11日の東日本大震災14周年記念の祈りでの使  
用を許可したものである。